

一 次の文章を読んで下の問いに答えなさい。

長野県大町市の荒山さんの森のなかを歩いていたら、クリの木に「①クマの座蒲団」がかけられていた。クリやトチの実を食べるとき、ツキノワグマは木に登ってほどよい枝に腰をかける。そこから周囲に手を伸ばし、ポキンと枝を折ってぐるぐるとイガを開き、皮をむいて実を食べる。そのとき残った枝を自分の尻の下に敷いて、少しづつ座り心地を良くしていくのである。

荒山さんは日本ではめずらしい林業家である。②天然の落葉広葉樹(※クリやトチなど)の森の手入れをして、天然の良木を育てる林業を試みている。だから彼の森は、林業地でありながら動物たちの森でもある。

森は自然的存在であるとともに、③「な存在なのだと思う。なぜなら人間の森へのかかり方によって、森は変貌をとげていくからである。林業や治山技術の変化も、社会構造の変化も森を変える。そしてひとつの時代を引っ張っていく、その時代の人間の精神もまた森に影響を与える。

戦後の社会が経済力を高めてきた頃から、日本の政策のひとつに、次のような考え方が定着していった。それは何か問題がおきたときには、より多くのものを建設することによって問題を解決するという思想である。

たとえば、一九六〇年代以降、都市の道路渋滞が問題になったけれど、それへの対応策は自動車の通行量を(1)ことではなく、より多くの(2)をつくることであつた。ところが建設をすめようとするれば、そのことによって新しい問題を発生させることがある。都市の水需要に応じてダムを建設すれば、当然水没する村の問題が出てくる、というように。そしてそのときも、ダム計画を縮小、撤回するのではなく、より多くの見返りを建設することによって、問題の解決ははかられた。それは現代の企業と同一の発想でもある。いうまでもなく企業は、経営基盤が安定しているときは、生産に問題が生じると、より新しい技術を導入し、より大きな新鋭工場を建設することによって、その問題の解決をはかってきた。それは工場だけのものではなく、たとえばリゾートをみても客足が鈍れば、より多くの開発をし、新しい設備を(3)することによって、新しいリゾートの「魅力」をつくりだそうとしてきたのである。

(A) 最近まで、日本の森林政策も、この考え方のなかにまき込まれていたのではないかと思うことがある。天然林を伐採し人工林をつくる拡大造林が、一時期あれほど善だとされたのは、人工林のほうが用材の生産性が高く、スギやヒノキなどの④有用材が多量に得られるからであつた。ここには工場と同じように森をつくり変えることによって、用材の生産性の高い森を開発していこうという⑤建設の思想があつた。

(B) 最近になってようやく私たちは、⑥森林にこのような考え方を適用した愚かさ(おろそかさ)に気づきはじめた。なぜなら用材の生産性を高めようとして人工林をつくりすぎることは、他の動植物にとって好ましくないばかりでなく、手入れに手間のかかる、災害に弱い森をつくってしまうことになる。さらに針葉樹の人工林は木材の生産以外には利用価値のない森になってしまったために、市場経済のうえでは価値は(7)、山菜や茸を採ったり、森の季節の移ろいを楽しむ暮らしのなかの価値は、(8)。

より多くのものを建設すれば、問題は解決するという建設の思想は、少なくとも森林や自然の問題にはなじまなかったのである。そしてこのことへの反省が、森とはその地域に適した森が一番問題の少ない森だということを、私たちにあらためて気づかせていった。地域の自然条件に適した森という面でも、その地域の風土や暮らしの歴史に適した森、という面からである。

(C) 大町の荒山さんは、自然に芽生えてきた木を育てる。それは地域の自然が芽生えさせた木である。間引きした木は、最近需要のふえてきたストープ用のマキとして販売し、新しい薪炭林のかたちを模索する。将来は太い天然林も育ってくるだろう。⑨その森には、いまでも秋になると、二つ三つ「クマの座蒲団」がかけられている。

(『森にかよう道』 内山節)

問一 ― ①「クマの座蒲団」の材料は何ですか。十字以内で書きなさい。

問二 ― ②「天然の落葉広葉樹の森の手入れ」とありますが、「手入れ」とはどのようなことですか。この文章の後半にある具体例を一つ、十字以内で書きなさい。

問三 ― ③に入る適切な語を次から選びなさい。

ア 人間的 イ 生命的 ウ 文化的
エ 社会的 オ 経済的

問四 ― (1) (3) に適切な語を考えて書きなさい。

※文中の語があてはまる場合もある。

問五 ― (A) (C) に入る適切な語を次から選びなさい。

ア ところが イ だから ウ そのうえ
エ つまり オ もしかすると

問六 ― ④「有用材」の言葉の意味を十字以内で書きなさい。

問七 ― ⑤「建設の思想」とはどのような考え方ですか。ふさわしい部分をこれより前の段落からぬき出し、はじめとおわりの五字を書きなさい。

問八 ― ⑥「森林にこのような考え方を適用した愚かさ」に気づきはじめた」について、

1、「このような考え方」とは何を重視した考え方ですか。文中の語で答えなさい。

2、「このような考え方を適用した」とは実際にはどうしたのですか。

問九 ― (7) (8) に入る適切な組み合わせを次から選びなさい。

ア ⑦高いうえに ⑧もつと上がってしまう
イ ⑦低いうえに ⑧もつと低下してしまう
ウ ⑦高くても ⑧逆に低下してしまう
エ ⑦低くても ⑧逆に上がってしまう

問十 ― ⑨「その森には……かけられている」とありますが、どのような森ですか。説明しなさい。

本文中の※は注として付記したものです。

一 二次の文章を読んで下の問いに答えなさい。

西洋のことわざに、「雄弁は銀、沈黙は金」という言葉があります。「口から泡を飛ばすような雄弁よりも、黙して語らぬほうが①分別があり、すぐれている」という意味です。

なぜか日本では「沈黙は金」だけが切り離されて、「おしゃべりが度を超すと人間の価値を下げることになる」という、いましめの意味でよく使われています。「②ある鷹は爪を隠す」と同じように、「沈黙」は奥ゆかしさの要素の一つとみなされているわけです。

けれど欧米(※ヨーロッパやアメリカ) 社会の現場では、こういう考え方はまったく通用しません。私自身の経験から言うと、③沈黙は「金」ではなく「罪」であり、「何も考えていない愚か者の証拠」です。

たとえば、ビジネスの交渉の場や、シンポジウム(※公開討論会、ディベートなど)に出席して、ひと言も発言しない人がいたとします。Aでは、「何か発言すればいいのに。ずいぶんおとなしい人だな」と思われるくらいです。Bでは、「あなた、なんのためにここにいるの?」という目で見られます。場合によっては、「邪魔だ」と思われるかもしれません。自分の考えを何も発言しないということは、非常に恥すべきことだと思われているのです。

「雄弁は銀、沈黙は金」ということわざは、あくまでも原則の世界のことであって、現実には、黙っていたのでは何もことは運ばないし、何も手に入れることができません。阿吽の呼吸とか、(④)と聞いた言い回しがあるように、Cでは「あえて口に出して言わなくても、相手は理解してくれるはず」と考えがちですが、Dでは、はつきり口に出して言わなければ何も理解されないし、自分から動かなければ何一つ自由になりません。

人前でミスをしたり意見を否定されたりすることは、ぜんぜん恥ずかしいことではありません。一步日本の外に出れば、⑤しりごみして何も発言しない方がよほど恥ずかしいことなのです。意見を述べている時に頭がパニックになったり、意見を否定されて動揺したりすることは誰にでもあるのですから、気に病むことはありません。思っていることを言わないで後悔するより、後悔するくらいならその時に言うておく、というほうがはるかに健康的です。

私は二〇代後半からヨーロッパを中心に仕事をするようになりましたが、その時、公の場で(⑥)をきちんと発言できるようにになりたいと思い、「国際会議やシンポジウムの席で、必ず一つは質問をする」という課題を自分自身に与えました。私にとって難しい課題でしたが、これに慣れない限り、⑦「コミュニケーション力やプレゼンテーション(※会議で計画などを発表すること)力や交渉力を高めることはできないと考えたのです。でも、そうは思っても、はじめは会場の片隅にちよこんと座ったまま、手をあげるタイミングさえつかめず、ひと言も発言できずに⑧つなだれて帰ってきました。

そこで次は、「質問をしないうちは帰らない」と心に決めて、あるシンポジウムに参加しました。基調講演に耳を傾ける余裕もなく、質疑応答に入るのを今か、今かと待っているうちに、ようやく質疑応答になり、意を(⑨)ぱつと手をあげると、演壇上の講演者から指名され、それと同時に案内係の女性が飛んできてマイクを私の前に差し出しました。ところが席を立ちマイクを手にしたその瞬間、それまで考えていた質問が頭の中からすべて吹っ飛んでしまったのです。結局、何も言えずじまいで着席しました。

「ああ、大恥をかいてしまった。周りの人達はさぞかし僕のことを冷笑しているだろうな」と思いましたが、周囲にはさわめきすら起こらず、マイクを手渡す係の女性はさつさと別の質問者のほうに飛んでいきました。

「そうか、(⑩)と気づいた私は、それからは人前で失敗することを恐れなくなりました。もちろん、この事件の前までは、「人前で恥をかくこと」は、できれば避けたい」という気持ちはありました。でも、「このままずっと避け続けていたら、自分は一生変わらない」とも思ったのです。

こうしてその後も、⑪「実践」(E)↓「反省」↓「新たな実践」↓「新たな(E)」を繰り返していくうちに、少しずつ公の場で発言できるようになっていきました。みなさんにも、できる範囲で、こうしたトレーニングを行なうことをお勧めします。たとえば、将来ついでに職業があるとしても、どんな職業であれ、興味をもっている分野で活躍している人に出会ってみたいと思うのなら、方法はいくらでもあります。目当ての人を見つけたら、その人の講演会などに足を運んで話を聞き、質疑応答の時に何か質問をしてみるとよいでしょう。

勇気を出して手をあげて(⑫)、必ずきちんと答えてくれる。つまり、その質問をする前に比べると、あなたは新しい何かを手に入れているわけです。その「何か」とは、よそでは絶対に手に入らない貴重な情報かもしれないし、「尊敬する人が自分の質問に答えてくれた」という満足感だけかもしれません。でも、とにかく確実に⑬「新しい感動や知的刺激が手に入るの」です。

一度経験してしまえば、次からは失敗が怖くなくなるので、前向きなことについての「人前で恥をかく経験」は早いほどいいのです。『自分力を高める』今北純一

問一——①とありますが、「分別がある」の意味を次から選びなさい。

- ア ものことははっきりと区別できる
イ ものこのなりゆきが順調である
ウ ものことが自然にわかれていく
エ ものこの筋道がわかつていく

問二——(②)に入る適切な語を漢字で書きなさい。

問三——③「沈黙は……です」の考えに合っていないものを次から選びなさい。

- ア 自分の考えを発言しないのは恥ずかしいことである。
イ 何も言わなくても人は自分のことを理解してくれる。
ウ 人前でミスしたり意見を否定されたりしても構わない。
エ 自分から働きかけることによって自由に行動ができる。

問四——A、Dには、ア「欧米」、イ「日本」のどちらかが入ります。それぞれ記号で答えなさい。

問五——(④)にふさわしい四字熟語を次から選びなさい。
ア 意気投合 イ 不言実行
ウ 一心同体 エ 以心伝心

問六——⑤「しりごみして何も発言しない」とありますが、その理由を十字以上二十字以内で答えなさい。

問七——(⑥)に文中の語句(五字)をぬき出して入れなさい。

問八——⑦「コミュニケーション力」としてふさわしいものを次の中から二つ選びなさい。

- ア 議題があるので学級会を開くよう自分から働きかける。
イ 学級会で自分の意見に賛成するよう事前に打ち合わせる。
ウ 学級会で自分とは異なった意見にも耳を傾ける。
エ 学級会で自分の意見が通るまでねばり強く発言する。
オ 学級会で自分と異なる意見の人に考えを変えてもらう。

問九——⑧「うなだれて」とありますが、この時の作者の気持ちはどのような気持ちですか。次から選びなさい。

- ア さびしい イ 落ち着かない
ウ 情けない エ 苦しい

問十——(⑨)に入る適切な語を次から選びなさい。

- ア 決して イ 返して
ウ 転じて エ 重んじて

問十一——(⑩)には、筆者の思ったことが入ります。筆者の立場になって、「聴衆(周りで聞いている人達)は……」に続く形で二十五字以内で書きなさい。

問十二——⑪の流れをふまえて、(E)に入る熟語を答えなさい。

問十三——(⑫)に適切な語句を五字で入れなさい。

問十四——⑬「新しい感動や知的刺激が手に入る」ことによつて、人はどう変わりますか。

本文中の※は注として付記したものです。

二 次の文章を読んで下の問いに答えなさい。

「ありがとう」と言われてイヤな気持ちになる人は①まずいいでしよう。「ありがとう」という言葉は、人の心を明るく弾ませてくれます。ふだん意識にのぼることはほとんどないけれど、そもそも「ありがとう」というのは、②「有りがたし」の連用形「有りがたく」がウ音便化して「有りがとう」となったもの。

有ることが難い（＝困難であること）、すなわち減多めったになくて貴重だということから来た言葉ですから、このわずか五文字の短いフレーズには、相手の親切や厚意を身にしみて嬉しく思う気持ち、相手をたたえる気持ち、たとえようもない感謝の念などいろいろな思いが詰まっています。たとえ今、それを口にする人が③そこまでの思いに至っていないかったとしても、「ありがとう」のひと言に込められた言葉は、やはり昔と変わらず④人の心を照らしてくれるでしょう。

ところが、こんなすばらしい感謝の言葉があるのに、「ありがとう」とお礼を言うべき場面で、「すみません」と言ってしまうことがよくあります。

言うまでもなく「すみません」は本来、謝るときに使う言葉。しかし最近では、落し物を拾ってもらっても「すみません」、道順を教えてもらっても「すみません」、レストランで店の人を呼ぶときも「すみません」……なんでも「すみません」ですませてしまう人が増えています。あまりに乱用されるため、もはや改まった場面では謝罪の言葉として使うのはばかられるほど。当然、お礼の意味で「すみません」を使うのは間違いだ（⑤）をひそめる人は多く、言葉遣いのマナー違反とされています。

けれど、マナー違反うんぬん以前に、本当は誰だつて感謝の言葉を言うべきときには「すみません」と言わないようにしようと思っているのではないでしようか。それでも、とつさに「すみません」という言葉が口について出てしまう。そして「あー、また言っちゃった」と反省する。そんな繰り返しをしているように思えます。

⑥これを「言葉の乱れ」と言ってしまうはそれまでですが、じつは「感謝」や「謝罪」に用いられる⑦「謝」という字の語源をひもとくと、おもしろいことがわかります。

「感謝」と「謝罪」——賢明な読者のみなさんはもうお気づきですね。そう、「感謝」の「謝」は、訓読みでは「あやまる」。お詫びする意味の「謝罪」だけでなく、「感謝」という言葉にも、「あやまる」という文字が用いられているのです。

これはいったいどういうことなのか、さっそく「謝」の語源をみてみましょう。

まず、「謝」は「言+射」で成り立っています。その構成要素の「射」は古代漢字では⑧張りつめた矢を手から離しているさまを表しています。矢を手から離せば、弓の緊張が解けてゆるみます。そこから、「言」をプラスした「謝」は、（⑨）を発することによって心の緊張をゆるめることを意味します。

言葉にして思いを伝えることができず心の中で思っているだけだと、思いが胸につかえて悶々もんもんとしてしまいます。それをちゃんと言葉に表すことができれば、弓の緊張が解けてゆるむように気持ちがすっきりとして、せいせいの気分になれます。つまり、「謝」という字は、心の負担をおろしてせいせいできるように言葉として述べることを表しているわけです。

自分の心にある（⑩）（気持ち）を言葉にしてお礼を述べれば「感謝」となり、詫びる気持ちを言葉にすれば「謝罪」となる。また、申し訳なく思ってお詫びの言葉を述べることは、相手の心の負担をおろすことにもなります。

こうして語源からみると、「感謝」と「謝罪」は意外にかけ離れたものではないことに気がかれます。「ありがとう」をつい「すみません」と言ってしまうのも、⑪むべなるかな。とにかく（⑫）（）という心理ゆえのことといえそうです。

（『漢字の気持ち』高橋政巳・伊東ひとみ）

問一——①とありますが、「まず」の使い方が最も近いものを次から選びなさい。

ア なによりもまず大切なのは安全だと思ふ。
イ まずまちがいないと思うがやはり心配だ。
ウ これでまずひと安心と思つていい。

問二——②「有りがたし」……となった」とありますが、ウ音便化してできたあいさつの言葉を一つ書きなさい。

問三——③「そこまでの思い」とはどのような思いですか。ふさわしい部分のはじめとおわりの五字を書きなさい。

問四——④「人の心を照らしてくれる」とは、どのようなことですか。文中の語を使わずに「人の心を……」に続く形で書きなさい。

問五（⑤）に入る適切な語を書きなさい。

問六——⑥「これ」とは何をさしますか。文中の語句を使って二十五字以内で書きなさい。

問七——⑦「謝」という字の語源をひもとく」とありますが、「語源をひもとく」とは書物をひらいて読むことです。どのような書物ですか。

問八——⑧「張りつめた……表しています」とありますが、このように目に見える物の形やようすを具体的にえがいた漢字でないものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア 木 イ 上 ウ 山 エ 手

問九（⑨）に入る適切な語を書きなさい。

問十（⑩）にふさわしい語句を十字以内で書きなさい。

問十一——⑪について、「むべなるかな」という言葉の意味に最も近いものを次から選びなさい。

ア ちよつと、こじつけているなあ。
イ 無理やりだが説明がついたなあ。
ウ 理解できる部分もやあるなあ。
エ なるほど、なつとくできるなあ。

問十二（⑫）にふさわしい語句を十二字以内で書きなさい。

四 次のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 ソッセンして手伝う。
- 2 ミッペイされた容器。
- 3 王様のゴエイをつとめる。
- 4 ギヤッキヨウにうちかつ。

